

支援情報等のお知らせ

- 1) 子ども・若者支援協議会からのお知らせ
 - ① 「県・市町村青少年相談担当職員研修会」アンケート結果
- 2) 自立支援に関するイベント等の情報
 - ① 子どもの居場所の「これから」を考えるセミナー
 - ② 群馬県子どもの学習支援ボランティア養成セミナー
 - ③ 平成30年度全国家庭教育支援研究協議会（文部科学省）
 - ④ ひきこもり支援講演会
- 3) 民間活動団体等の紹介
 - ① 無料学習支援「みどの学習クラブ」

1 「県・市町村青少年相談担当職員研修会」アンケート結果

「思春期・青年期の不登校・ひきこもり状態の理解と支援を考える」をテーマに群馬県公社ビルのホールで実施(12/17)した研修会の事例報告の資料とアンケート結果の概要版を添付したのでご覧ください。

皆さんから寄せられたたくさんの意見を参考にしながら、引き続き研修会の充実に努めていきます。
来年度のテーマは「再学習支援」を予定しています。

なお、事例報告のまとめについては現在作成中です。
公表までしばらくお待ち下さい。

2 2/9 子どもの居場所の「これから」を考えるセミナー

今、子ども食堂や無料学習塾をはじめ、大きな広がりを見せている「子どもの居場所」。
その目的も内容もさまざまですが、地域の中で子どもたちの成長を支援する場所として、大変重要なものになっています。

困難を抱えた子どもたちへの学習支援、自然の中での遊びを通じた居場所、障害を持つ子どもや外国籍の子どものための居場所など、いろいろな「かたち」で活躍する方々の事例を紹介します。

【セミナー】

日時 2月9日（土）13:00～16:30

講演 『子どもの居場所「これから」を考える』

講師：NPO法人キッズドア理事長 渡辺 由美子氏

パネルディスカッション

『子どもの居場所のいろいろな“かたち”と「これから」について』

コーディネーター：NPO法人 キッズドア理事長 渡辺 由美子氏

パネリスト：NPO法人 あかぎの森のようちえん 礒島 隼人氏

NPO法人 iitoko 浅香 千恵氏

NPO法人 いせさきNPO協議会 社会貢献ネット

本堂 晴生氏

会場 群馬会館 ホール（前橋市大手町2-1-1）

申込み・問合せ先

群馬県社会福祉協議会 生活支援課

TEL 027-255-6032

詳細は、県社会福祉協議会のHPをご覧ください。

<http://www.g-shakyo.or.jp/%e6%9c%aa%e5%88%86%e9%a1%9e/16631.html>

3 2/16、3/9 群馬県子どもの学習支援ボランティア養成セミナー

現代における社会的問題としての「貧困の連鎖」を断ち切り、困難を抱える子どもたちが将来において、経済的、社会的に自立した大人に成長を遂げ、社会を支える市民になって欲しいと願っています。

全国に広がる支援の必要な子どもたちに、私たち市民が支援できることのひとつとして「学習支援活動」があります。

そのボランティアの役割について、理解を深め、さまざまな課題を抱えた子どもへの対応について学ぶためのセミナーを開催します。

【基調講演・パネルディスカッション】

日時 2月16日(土) 13:30~16:30

会場 共愛学園前橋国際大学1号館 前橋市小屋原町1154-4

基調講演

「寄り添い型の学習支援とは、そしてボランティアの必要性」

講師 吉田 博彦氏 (NPO法人教育支援協会 代表理事)

パネルディスカッション

「地域で支えることとは、ボランティアの意識改革」

パネリスト 実行委員会及び行政関係者

コーディネーター 吉田 博彦氏

【実践報告・ワークショップ】

日時 3月9日(土) 13:30~16:30

会場 群馬県生涯学習センター 視聴覚室(前橋市文京町2-20-22)

実践報告(支援者・受益者の視点から)

ワークショップ

「学習支援」をする上で大切なこと 他

セミナーの詳細は、主催団体のHPをご覧ください。

(NPO法人 教育支援協会北関東)

<https://kyoikushien-kitakanto.com/>

4 2/12・13 平成30年度全国家庭教育支援研究協議会

文部科学省では、地域の多様なアプローチによる家庭教育支援の推進方策について、学校・家庭・地域の連携・協働により、地域全体で家庭教育を支えていくための課題や取組の方向性を考える研究協議会を開催します。

【基調講演・パネルディスカッション・ワークショップ】

日時 2月12日(火) 13:00~18:30

2月13日(水) 10:00~16:15

会場 文部科学省 東館3階講堂(東京都千代田区霞が関3-2-2)

対象 行政(教育・福祉)、NPO、民間団体、地域支援関係者など

定員 300名(先着)参加費無料

基調講演

①「子育てにおけるスマホと生活習慣など」

東北大学加齢医学研究所所長 川島 隆太氏

②「家庭教育支援のための相談スキル」

常盤大学人間学部心理学科教授 秋山 邦久氏

パネルディスカッション

12日「教育と福祉の連携による家庭教育支援の取組」

コーディネーター：山野 則子氏(大阪府立大学教授)

13日「子供の生活習慣づくりの多様な取組」

コーディネーター：鈴木 みゆき氏

(国立青少年教育振興機構理事長)

詳細は、文部科学省のHPをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/1411822.htm

5 2/17 ひきこもり支援講演会

ひきこもり経験者・家族が仲間とともに明るく前向きに歩き、学び・成長することを目的とする団体、KHJ 群馬「はるかぜの会」では、

ひきこもり支援講演会を開催します。

【ひきこもり支援講演会】

日時：2月17日（日）13：30～16：30

場所：県庁昭和庁舎 26会議室

講演会：

「ひきこもり長期化の不思議 家族、当事者それぞれの停滞の理由」
後半15：45～講師と若者との交流時間も予定しています。

対象：ひきこもり家族、および関係者

講師：石川 清 氏

ひきこもり訪問サポート・フリーライター・ジャーナリスト

著書『ドキュメント・長期ひきこもりの現場から』他

申込み、お問い合わせは下記電話までご連絡をお願い致します。

KHJ群馬はるかぜの会 080-9373-4760

KHJ全国ひきこもり家族会連合会の詳細はHPをご覧ください。

<http://www.khj-h.com>

6 民間活動団体等の紹介 無料学習支援「みどの学習クラブ」（高崎）

ひとり親世帯や困り事がある家庭の子どもたちに、無料で学習支援を行っています。大学生を中心としたボランティアの学習サポーターが宿題や自由勉強をマンツーマンで応援しています。

大学生への憧れ、将来の夢、当たり前の生活、子どもにとっても、保護者にとっても、安心な居場所となれる学習の場を目指しています。

活動の詳細はホームページをご覧ください。

<https://midono.jp/info/midonostudyclub/>

次号は、2019年2月中旬を予定しています。

本メルマガを、皆様の周りの方にも周知いただければ幸いです。
また、子ども・若者支援に関する情報等の提供もお待ちしています。

メルマガを新規で受信希望する方は、「所属・氏名・メールアドレス」を『kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp』までお送り下さい。

..... 群馬県子ども・若者支援協議会

- ▼ 事務局 群馬県前橋市大手町1-1-1 子育て・青少年課内
- ▼ TEL 027-226-2393
- ▼ FAX 027-226-2100
- ▼ e-mail kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp
- ▼ HP <http://smilelife.pref.gunma.jp>

平成30年度 群馬県子ども・若者支援協議会
県・市町村青少年相談担当職員研修会



平成30年12月17日(月) 13:00~16:10

群馬県公社ビル ホール

子ども・若者の相談・支援に携わる皆さんへのメッセージ（Ⅱ）

昨年の研修会では、「不登校・ひきこもり、再学習、就労を支援する」をテーマに、学校の先生方だけでなく、行政や福祉分野の方、当事者の親御さんと、さまざまな方々に集っていただきました。

三部構成のパネルディスカッション、1)「不登校・ひきこもり」対応、2)「再学習」に向けた対応、3)「就労」につなげる対応で、子どもを支える大人としてどのようなことができるか、意見交換を行いました。

私はコーディネーター役として、①子どもや家族は何に困っているのか、②一歩を踏み出すことを支える支援は何か、③連携とは具体的にどのようなことか、という視点で全体を進行させていただきました。

そして、子ども・若者の相談・支援に携わる一員として、

■彼ら彼女らが『社会』との関係性の中で立ち止まり、あるいは困り果て、または、変わりたいという気持ちをとどめていること、ここに眼差しを向け、聴く耳を持っていくことが大事ではないか。

■ 私たちは、一人ひとりで子どもたちを抱え込むのではなくて、家族や学校、支援機関が役割分担をしながら連携していくことが大事ではないか。今日ここに参加された一人ひとりが、つながれるかどうかだ、と、全体をまとめさせていただきました。

(*研修会の内容は県HPでご覧になれます <http://www.pref.gunma.jp/03/bv0100029.html>)

県では、参加者のアンケート結果も踏まえて、「不登校・ひきこもり」「再学習」「就労」に関する相談・支援を研修テーマの3本柱に掲げました。そして、相談・支援現場の課題解決につながる具体的な情報を提供するために研修内容を深め、当事者を社会全体で切れ目無く支えていくための相談・支援機関の連携について考えることを決定しました。

今回のテーマ、「思春期・青年期の不登校・ひきこもり状態の理解と支援を考える」を進めるにあたっては、学校や医療現場などの関係者だけでなく、不登校・ひきこもりの経験者や経験者の親御さんにも参加していただき、ご自身の体験を語っていただくことにしました。

不登校は『日常のなかに置かれた非常口』だと述べられた方がいらっしゃいます。

それぞれの発言を通して、思春期・青年期における不登校・ひきこもり状態の理解を深めるとともに、非常口の先にある豊かな世界が子どもや若者に見えるよう、必要とされている支援の在り方について、会場の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

一人でも多くの方が参加されることを期待して、私からのメッセージとさせていただきます。

平成30年度「県・市町村青少年相談担当職員研修会」次第

平成30年12月17日(月) 午後1時～4時10分
群馬県公社ビル ホール

1 開会

2 あいさつ 群馬県 こども未来部長 中村 弘子

3 研修テーマ「思春期・青年期の不登校・ひきこもり状態の理解と支援を考える」

高校中途退学者、中学校卒業後進路未決定者の多くは、思春期・青年期特有のさまざまな要因から不登校となり、学校を離れた後もひきこもり状態が続いている者が少なくない。

このため、本人が「不登校・ひきこもり状態」から自分の進む道を見つけて新たな一歩を踏み出して行けるよう、家族を含めた当事者の気持ちに寄り添った支援が求められている。

今回は、支援者として「不登校・ひきこもり状態」の理解と支援の在り方を考えていく。

4 スケジュール

時間	内容	備考
13:10～13:20 (10分間)	全体ガイダンス ＜コーディネーター＞ リンケージ理事長 臨床心理士 石川京子氏	テーマ 全体進行 の説明
13:20～14:30 (70分間)	事例報告(1) 15分間 「不登校・ひきこもり 本校の取組みと課題」 県立長野原高校 養護教諭 高平 智加子 氏 事例報告(2) 15分間 「不登校・ひきこもり 私の場合」 「アリスの広場」理事長 佐藤 真人 氏 事例報告(3) 15分間 「我が子の不登校・ひきこもり 親の立場から」 さくらんぼの実る頃 代表 湯浅 やよい 氏 事例報告(4) 15分間 「精神保健福祉センターの取組み」 県こころの健康センター 技師長 大館 実穂 氏 まとめ 10分間 事例報告の概要をまとめて後半につなげる コーディネーター(リンケージ理事長) 石川 京子氏	
14:30～14:45 (15分間)	休憩(15分間) 質問用紙の回収(14:35まで)	舞台暗転
14:45～16:00 (75分間)	パネルディスカッション コーディネーター 石川 京子氏(NPO法人リンケージ) パネリスト 佐藤 真人氏(アリスの広場)、 湯浅やよい氏(さくらんぼの実る頃) 高平 智加子氏(長野原高校養護教諭) 大館 実穂氏(こころの健康センター) 鈴木 基司氏(みどりクリニック院長)	

5 閉会(16:10 予定)

事務連絡(アンケート回収など)

「不登校に関する本校の取組み」

群馬県立長野原高等学校 養護教諭 高平智加子

1 学校の概要と実態

- ・学科 普通科（6学級） ・在籍 141名 （男子91名、女子50名）

入学生の2割近くが100日を超える不登校の経験を持つが、そのうちの3分の2が学校に適応し学校生活を送っている。発達障害を有する生徒（疑いも含む）・特別支援の必要な生徒も多いが、日常の学校生活は落ち着いている。部活動、委員会活動、資格取得等、それぞれの目標に向かって前向きに取り組む生徒が多い。

2 不登校に関する取組み

（1）学校生活への適応のために・・・課題の早期把握と対応

① 中学校訪問（入学前）

中学時の担任と、入学する生徒の特性や苦手なこと、高校生活に期待すること等について情報交換を行い、入学直後の学校生活へのつまづきを極力減らすための資料とする。

② グループエンカウンター（1年）

クラスの間関係を円滑にするために、入学後2～3日うちに実施する。その際、スクールカウンセラーや教育相談部職員・養護教諭も参加し、集団が苦手な生徒の様子などを観察する。

③ M2-DV+ 本人の性格の把握を目的に全学年実施。結果の理解と活用について、職員研修を行う。

④ 担任による面談（全学年）

4月半ばに実施。担任が、学習面・人間関係・進路等について聞き取り、新年度直後の学校生活への適応の状況や課題等について全職員で共有する。

⑤ 「保健室・別室登校は行わない」「保健室利用は1時間まで」を入学前の説明会で保護者・生徒に伝えておく。保健室は、クールダウンと気持ちの切り替えの場としている。

（2）学習面での自信を取り戻すために

本校に入学する生徒の多くは、中学校時代までの「つまづき」や「不登校等による未習得の内容の分野」があり、これまでの基礎基本が定着していない生徒が多い。学習面での遅れは、大きな不安材料になっている。これに対応するため、「国数英の学び直し」や少人数制授業、習熟度別指導、チーム・ティーチング等実態に合わせた指導を行い、自己肯定感や達成感、充実感を得られるよう指導を行っている。

（3）卒業後の社会適応のために

① 社会で通用するマナー、あいさつ、言葉遣い等についての指導

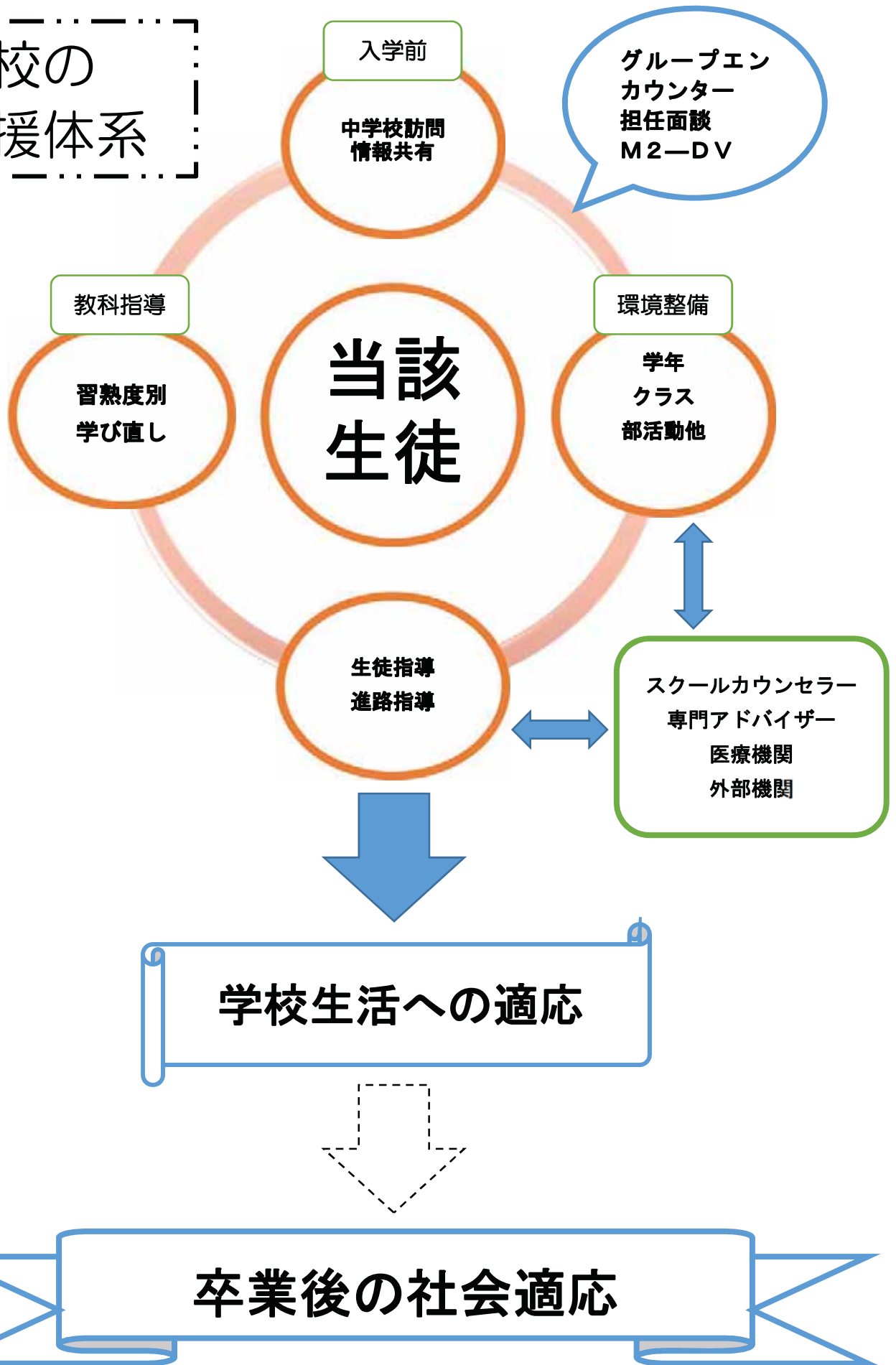
② 特別な支援を必要とする生徒への働きかけ

- ・こだわりや困り感について、専門アドバイザーと連携し、相談や検査を実施
- ・高校通級制度の活用

3 今後の課題

卒業後、会社に適応できずに辞めてしまうケースが多い。高校で概ね適応できていると、発達障害等の課題が解決されないまま、卒業してしまう可能性がある。高校在学中に、本人の悩みや困り感などに寄り添い、必要な支援をする仕組みが必要であると感じる。今後、30年度より始まった高校通級制度の活用やハローワーク、生活支援センター等との連携を充実していきたい。

本校の
支援体系



■ アリスの広場とは？

- 2014年より活動を始めた、不登校やひきこもりなどの若者の居場所、就労体験の場
- 好きな時に来て、自由に過ごせる、家でも学校・会社でもない、第3の居場所
- 外に出ることに慣れること、そしてさまざまな人と出会い、交流する中で視野を広げ、次へのステップへとつなげる

■ 活動内容.....

- 常設の居場所として火～土曜日 10時から18時までオープン
- 対象：小学生から概ね30歳
- 毎月若者主体のお料理会を開催
- 毎月アーティストを招いた「アリスの広場・美術部」を開催
- アーツ前橋で自分のペースで作品を見てまわる「ゆったりアーツ」
- 日帰りや1泊2日の野外体験活動「ゆったりアウトドア」の開催
- 状態に合わせた就労体験を提供

■ 自己紹介.....

- 中学1年から6年間、不登校・ひきこもりを経験
- 大検を受け、2年遅れで大学、大学院へ進学
- 26歳で就職するも半年で辞める
- 28歳から再び支援を受け、社会復帰

■ 巣立っていくきっかけ

不登校だった若者の場合 Aさん 10代

- 全日制の高校に通っていたが同世代が苦手
- 東京へ行くなど一人での行動は問題なかったが、外出先で食事ができなかった
- 2年生になるタイミングで通信部に移る
- アリスの広場で1泊2日のアウトドアで初め

て外出先で食事ができた

- 通信部は合っていたようで、多いときは週2～3回通うようになる
- 来年、短大進学が決まった

社会人経験のある若者の場合 Bくん 20代

- 新人の早い段階で、仕事量の多い窓口業務に回され、うまく対応できずに半年で辞める
- 大卒でそれまでは何の問題もなかった
- 初めは掃除の就労体験から始め、間もなく桑畑でのアルバイトをはじめ。その後も遺跡発掘のアルバイトなども行う
- 親が会社経営者と知り合いで4月に再就職

自分の場合 10代、20代

【10代後半】

- 15歳の頃からフリースペースに通い始める
- 17歳、人生に絶望していた時、母から大検予備校の新聞チラシを見せられる。
- 「結果はどうであれ、試しに受けてみたら」
- 初めは大学進学などは全く頭になく、出来る事から一歩ずつ

【20代後半】

- 会社の上司が厳しく半年で辞める
- 28歳でかつてお世話になったフリースペースへ再び通い始める
- 初めは内職から就労体験をして自信を取り戻す
- 同時に若者サポートステーションのお世話に
- 29歳で再就職

■ 巣立っていく若者の特徴.....

- 若い：選択肢が多い、考えが柔軟
- 短くても社会経験がある
- 生活リズムが乱れていない
- 友人関係が続いている、良好
- 家族の理解と支援

<高崎市市民公益活動団体>

不登校と向き合う親の会 さくらんぼの実る頃

2013. 5. 19設立

上手に学校に行くことが出来ない不登校の子を持つ親の集いです
高崎市を拠点に活動しています。



代表 湯浅やよい (高崎市家庭教育推進協議会委員・高崎市社会教育講師)
スタッフ5名 、学生ボランティア1名

<設立の目的>

現在24歳社会人の三男が中学生1年生から卒業までの間に2年7ヶ月の不登校を経験。中学の先生方や友人の支えにより県立高校に合格。高校生活を謳歌し予備校を経て大学に進学する。学校に行けない子を持つ親が辛さを吐き出す場所が必要であることを痛切した体験をきっかけに、同じ悩みを持つ親御さんの力になりたいと思い一年間の準備期間を持ち親の会を設立する。

<ホームページ>

会の活動、交流、教育・子育て、わたくしごと、その他 各カテゴリで情報を発信。
連日更新中。(高崎市ホームページ サイト内検索キーワード「不登校」で閲覧可能)

<月例対話集会> (群馬県教育委員会後援)

毎月第4日曜日に高崎市市民活動センターソシアスにおいて開催。座談会形式で思いや体験を語り合い、不登校を乗り越えるヒントを得る。同時開催「子どもの集まり」

<シンポジウム開催>

「若い人の生きるを支える」をテーマに年に一度のペースで開催。実績6回。
若者支援を行う NPO 法人代表や不登校経験者を招いて若者を取り巻く不登校や社会問題について周知を図ること、また他団体との連携の必要性について啓蒙活動を行う。

<若者支援団体リンク 上毛のみなみ風 交流会>

不登校支援には他団体及び教育関係者との連携の必要性を感じ、月に一度交流会を開催中。

群馬県こころの健康センター

精神保健福祉センター

H26.6～ひきこもり支援センター
H29.4～自殺対策推進センター

複雑困難な相談

特定相談

- 依存症
- 思春期
- ひきこもり
- 自死遺族

こころの相談

- 電話相談
- メール相談

自立支援医療
(支給認定)

知識の普及・調査研究

本人・家族の教室

- 依存症当事者の教室
- 依存症の家族教室
- ひきこもりの家族教室
- 自死遺族交流会

精神医療審査会
(精神障害者の人権に配慮しつつ、適正な医療を確保するための処遇等の審査)

精神保健福祉手帳
(等級判定)

人材育成・技術支援

研修会・講座等の開催

- 支援者対象研修
(基礎、専門・担当者別)
- 県民向け講座等
- 自殺予防講演会
- 講師派遣 他

関係機関連携・育成

- 市町村や県保健所のバックアップ

精神科救急情報センター

24時間365日対応

県内の精神科三次救急の対応 (精神障害による自傷他害のおそれがあるケースを強制的な措置入院へ繋げる)

☆地域の精神保健福祉の仕組み☆



群馬県民

市町村 (中核市は保健所機能あり)

バックアップ

保健福祉事務所 (県)

バックアップ

群馬県こころの健康センター



群馬県民のこころの健康を保つために活動中

群馬県ひきこもり支援センター

国がH21年から制度化。本県はH26年に設置。

どこに相談したらいいかわからない方のための

一次的な相談窓口です

当事者や家族からの電話・来所等を中心に相談に応じ、対象者の状況に応じて、医療・教育・労働・福祉などの適切な関係機関に**つなげる役割**を担っています。

専用電話への入電

例↓

係内カンファレンス

ひきこもりの支援に必要なのは
遠くの専門家より近くの支援者

・個々の状況に応じて関係機関(生活困窮窓口、就労支援、学校保健、民間の活動等)へ**つなぐ**

電話相談

ひきこもり保健相談

ひきこもり医師相談

・まずは家族支援が必要と思われるケース

ひきこもり保健相談

→ ころせ・家族教室

・医師の診たてが必要・相談者が医師への相談を希望するケース

ひきこもり医師相談

→ 精神科医師の診立てに基づき支援方針を検討

・発達障害が疑われ、まずは本人・家族が発達障害を理解するところからスタートすることが必要と思われるケース

ひきこもり医師相談

→ 発達障害者支援センター、発達障害相談支援サポーターとの**連携・つなぎ**

・精神疾患が疑われ、地域精神保健福祉支援が必要と思われるケース

ころせ・アウトリーチ対応

ひきこもり医師相談

ころせ・思春期医師相談

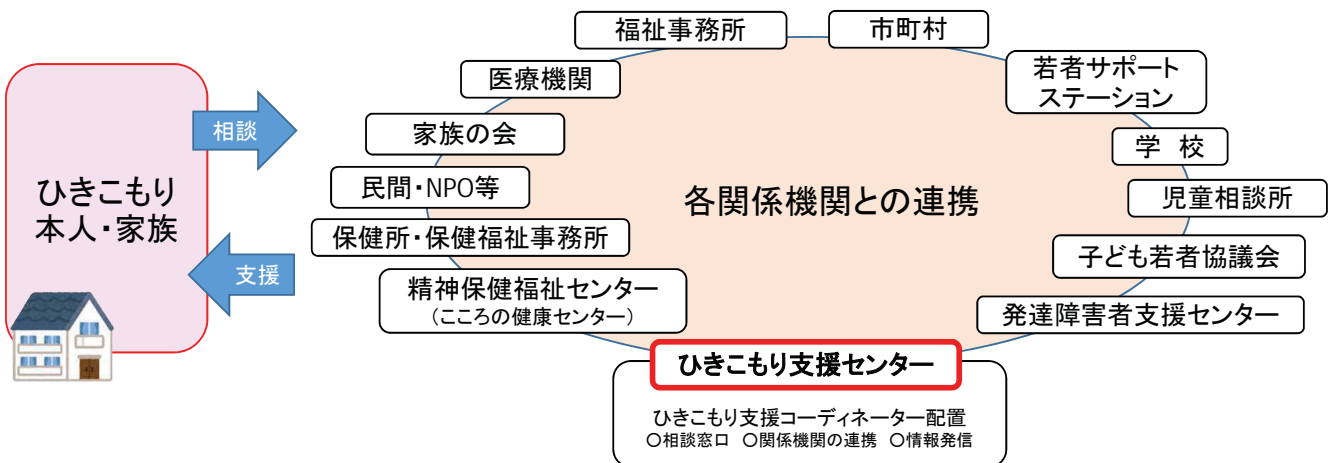
→ 保健所、相談支援事業所との**連携・つなぎ**

必要な支援へ

関係機関との連携

個別ケースへの支援を通して関係機関と顔の見える連携を行う。

さらに、ひきこもり専門窓口として、市町村や相談機関等へのスーパーバイズを行う。



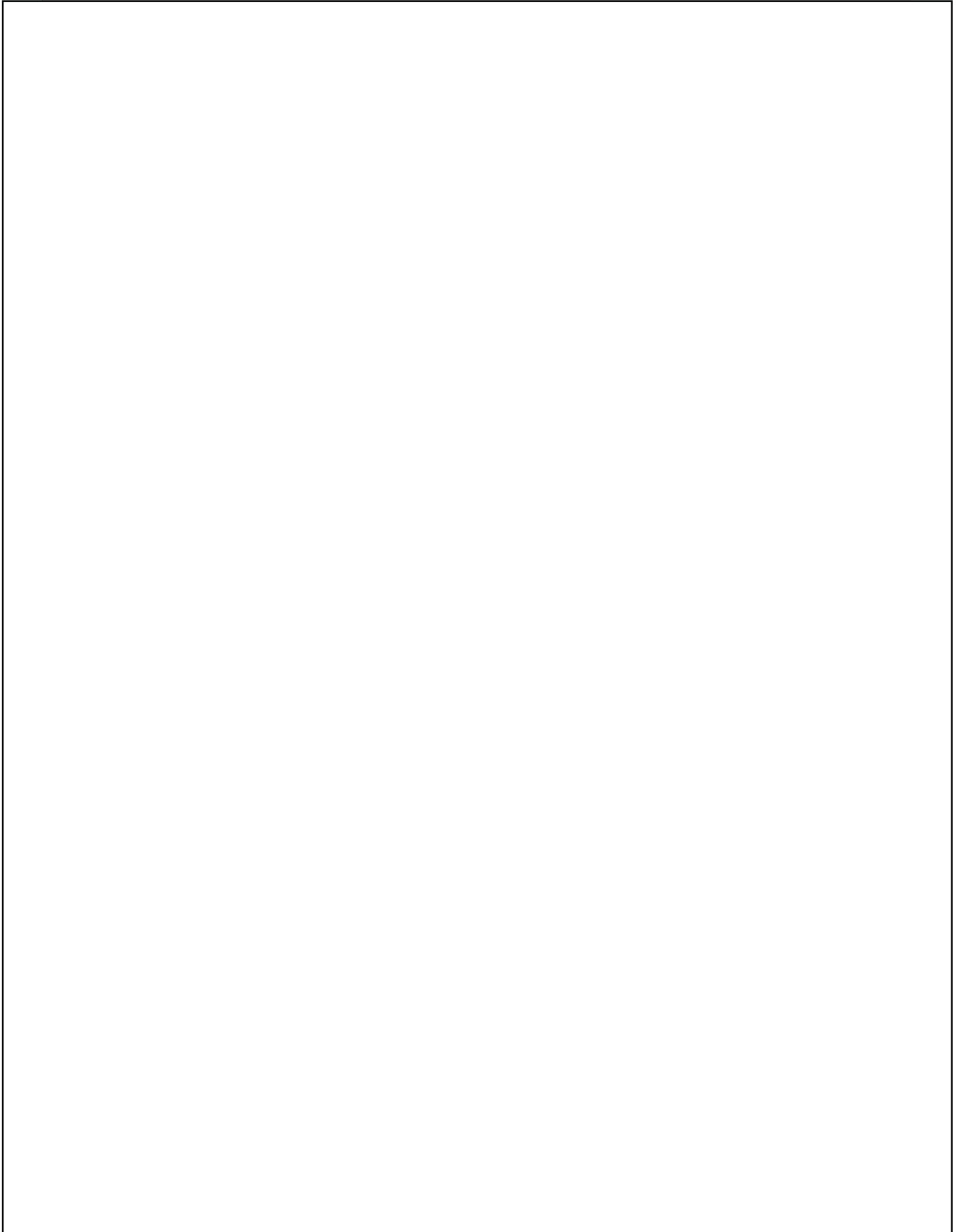
情報発信

ホームページへの掲載、上毛新聞、FMぐんま・群馬TVによる広報を実施。

県民向けのひきこもりに関する講演会を実施。

人材育成

ひきこもり支援に携わる支援者に対する研修を実施。



平成30年度

「県・市町村青少年
相談担当者研修会」
アンケート結果
(概要版)

群馬県子ども・若者支援協議会

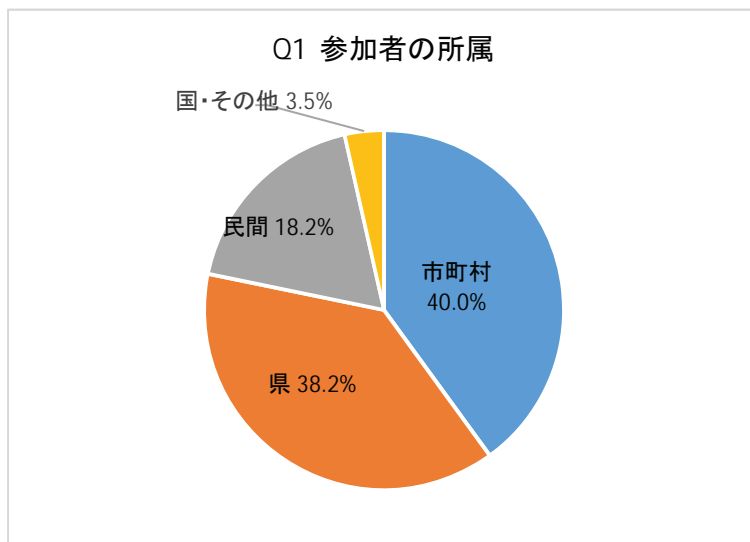
平成30年度 県・市町村青少年相談担当職員研修会 アンケート結果

日 時:平成30年12月17日(月)
13:00~16:10
会 場:群馬県公社総合ビル

○研修参加者 240 人
○回答者 170 人
○回答率 70.8 %

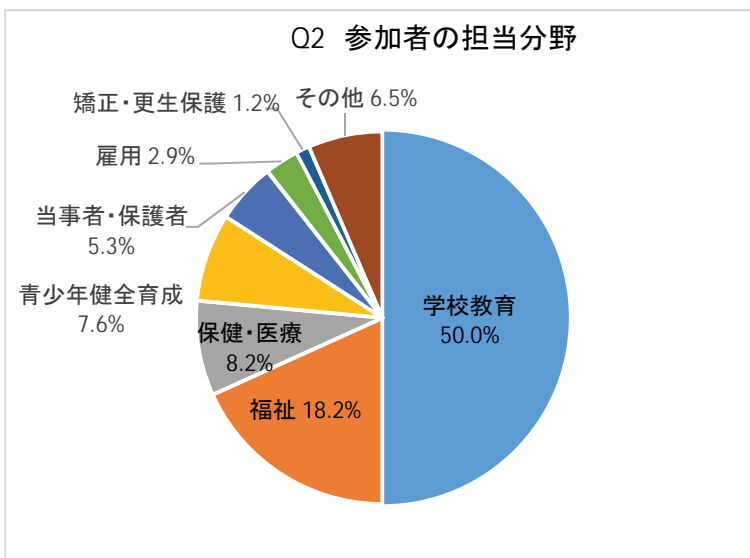
Q1 参加者の所属

区分	人数	割合
市町村	68	40.0%
県	65	38.2%
民間	31	18.2%
国・その他	6	3.5%
合計	170	



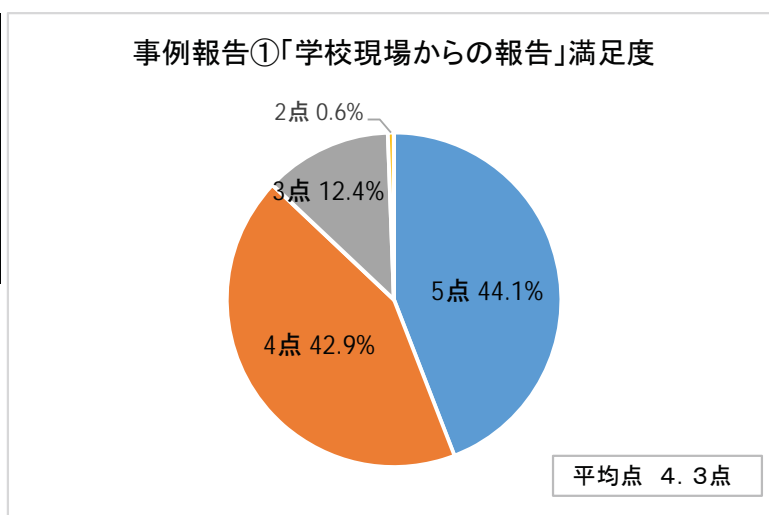
Q2 参加者の担当分野

区分	人数	割合
学校教育	85	50.0%
福祉	31	18.2%
保健・医療	14	8.2%
青少年健全育成	13	7.6%
当事者・保護者	9	5.3%
雇用	5	2.9%
矯正・更生保護	2	1.2%
その他	11	6.5%
合計	170	



Q3(1)事例報告1「学校現場からの報告」の満足度
 パネリスト:長野原高校 養護教諭 高平智佳子氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	75	44.1%
	4点	73	42.9%
	3点	21	12.4%
	2点	1	0.6%
低	1点	0	0.0%
合計		170	



○意見・感想等

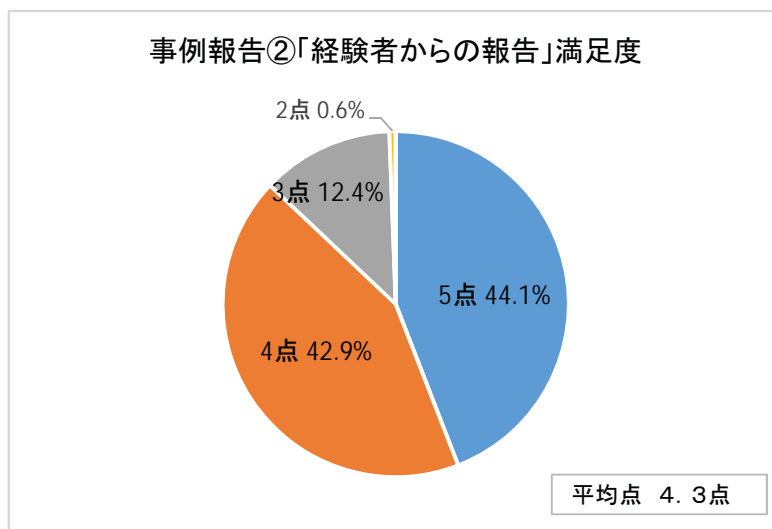
1	取組を参考にしたいです。入学前に学校の共通見解として保護者に伝えることの大切さを感じました。
2	県立高校の不登校経験者に対しての取組を発表していただきありがとうございました。この取組が中堅高以下の全ての県立高につくられることを願っています。
3	高校での生徒一人一人に向き合う取組を知ることができました。
4	入学前そして入学後の丁寧な取組がわかりました。他校へも、この考え方、子どもへの寄り添い方が広がっていくと良いと思いました。
5	職員全体での支援ができているのだと感じました。
6	保健室での対応など、入学時からきちんと生徒、保護者等に伝えられており、学校としての方針がしっかりされていることに感心しました。小学校では相談室の担当職員などがおらず、ずるずると登校しないよりは良いという思いで、保健室での登校となってしまうことがあります。他の人に聞かせたくないような内容になる保健室での対応指導が、その子がいるので出来なくなってしまうことがあり困っています。
7	私も養護教諭なので大変参考になりました。全職員が組織で動いている様子がわかりました。「保健室別室登校は行わない」というのがびっくりしましたが、その分、学校の体制がしっかりしていることがわかり勉強になりました。しかし、実際は別室登校なら学校に行けるという生徒がいないのか気になりました。
8	発達障害の傾向がある生徒も多く在籍しているという所に大変興味があります。他者と適切にかかわれない生徒もいますか？
9	不登校の生徒を受け入れている高校があるということを知ることができた。中学校の教員の方にもこのような研修の場に参加して欲しいと思った。
10	長野原高校のイメージが変わりました。教員の方が連携されていることは素晴らしいと思います。
11	組織として子どもたちに接しているのが印象的でした。保健室利用の時間を区切っているというのが、しっかりと守られているのがすごいと思いました。
12	高校がこんなに工夫して子どもたちに対応していること。その中にきちんとしたルールがあることなど、大変勉強になりました。
13	学校内のチームワークにより、入学前からの情報収集を行っていることは生徒と向き合い支援する準備ができていると感じました。学校も教育相談だけではなく、全職員で取り組む重要性を再認識しました。

14	高校ですが、学校でどんな風に対応しているかわかりました。学校ごとの違いはあると思うが、地域で連携する方法もあるなと思いました。
15	不登校の子どもたちは高校生活に不安を抱いている。このようにきめ細かな対応をしてくれる高校の存在は、そのような生徒・保護者にとって安心できるのではないか。
16	中学で教育相談に関わっております。今しか手厚くやってあげられないと思い、丁寧に生徒自身に考えさせ決断できるように声かけをしているつもりです。それは高校に行ったら、自分の行動は全て自分に返ってきてしまうことが分かっているからです。人を信じて、助けを求められる経験を積み、味方を見つけて力強く高校でやって欲しいと思っています。
17	入学前からの関わり、入学直後からのグループカウンター、M2-DVの利用等、一人一人に細かく関わっている点がすばらしいと思いました。
18	養護教諭と他の教職員との連携が上手にできていると思いました。参考にしたいです。
19	高校の対応に感謝です。中学校は送り出し、後は本人の努力を期待するだけだったので。
20	教育現場の視点からの支援について、なかなか触れる機会がないため、大変参考になりました。
21	私自身も高校に勤務しているため、お話を聞いて共感できる部分が多々ありました。保健室が学校生活の中で心身を休める場所になることは大切ですが、その先を見据えて支援していけるよう心がけたい。
22	同じ学校現場で働いているのでとても参考になりました。教員間の連携がやはり大切であると思いました。
23	養護教諭の立場から職員との連携の大切さ、「保健室1時間利用のルール」を設定したことのメリットなど、実例を伴った話をしてくださり、大変分かり易かったです。長野原高校のチームでの取組は、様々な問題を抱えた生徒にすごく生かされており、同種の問題を抱える学校で参考になる点が多くあります。私は進学校ですが、大切にしたい考えはやはり同じで、卒業後、大学に入ってからのもまで、目を向けて指導・支援していきたいと思います。
24	丁寧な指導に驚いています。しかし、そうせざるを得ない子どもたちが増えていることにも驚きです。長野原高校があることで、どれだけ助けられている子どもがいることか！。職員の皆さんの思いやりのある取組に頭が下がります。
25	とても丁寧に子どものことを見てくれる高校だと思いました。私も中学の養護教諭で「保健室利用は1時間」と決まっています。たいがいの生徒は、その後早退となります。教室で授業を受けられないのなら帰りなさいというのは辛いです。仕方がないことは分かっていますが。
26	学校は温かい所だと再認識しました。
27	保健室利用のルール作り、大変参考になりました。生徒数に関わらず大切なこと(義務教育じゃないからこそ)だと思いました。
28	ひきこもり、不登校の生徒に対する支援方法について理解を深められました。3分の2の生徒が登校出来るようになる中で、残りの3分の1の生徒はどうなのか、どんな支援をしているのかが気になりました。
29	知っている子どもたちが長野原高校に何人も入学し、高校に入ったら通えるようになったと聞いていました。こんな取組があったのだとは知りませんでした。もっと近隣へ広報していただけたら、救われる子どもが増えるのではないかと思います。

Q3(2)事例報告2「経験者からの報告」の満足度

パネリスト:アリスの広場 理事長 佐藤 真人氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	75	44.1%
	4点	69	40.6%
	3点	25	14.7%
	2点	1	0.6%
	1点	0	0.0%
合計		170	



○意見・感想等

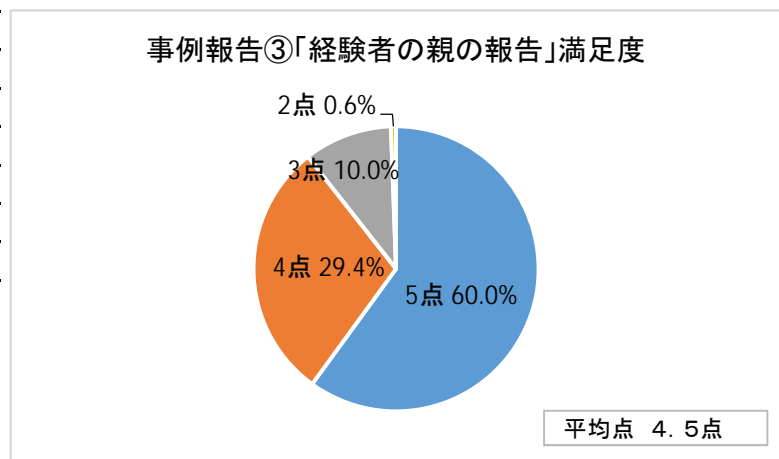
1	家・学校以外の居場所の提供、経営的に考えて厳しい時があるかと思いますが、民間だからできる自由度を生かし、これからも場を提供し続けていただきたいです。
2	体験がキーワードだと思いました。お世話になっている生徒がいます。いつもありがとうございます。
3	アリスの広場のようなフリースペースの存在で助けられている人が多くいると思います。
4	先生の体験を基に、このような施設を設立してすばらしいと思いました。身内で不登校の子がいるので、「アリスの広場」の話をしてみようと思います。仕事を始めて何かあれば、また戻って来られるというのがいいと思いました。
5	ご自分の経験を生かして、アリスの広場を運営していることがすごいと思いました。
6	適応指導教室にも歩が向かないお子さんに紹介してみたいと思いました。
7	ネットのつながりと実際の関わり、上手に出来ない人が父母になっていて心配しています。今後さらに不安。子どもに寄り添う親が減っている不安。
8	今までに経験された方から話を聞く機会がなかったので大変プラスになった。ひきこもりの子どもさんを抱えた方々への支援のために役立てたい。
9	自分が子どもの時にこんな場所があったら良かったのにと感じました。
10	家・学校・職場ではないつながり、第三の居場所としての機能の大切さをすごく感じました。
11	自由にさせる第三の居場所。現代は不寛容な時代で、このような空間と時間を人間に与えることを許さないため、若者がエネルギーを貯めることができないのではないかな。
12	様々な体験、経験を通して自己有用感、自己肯定感を高める支援をされていると感じました。人と人を繋げ、人が成長する働きかけをすることのきっかけづくりを知ることができました。
13	不登校・ひきこもりの若者を受け入れるフリースペースの存在は、ありがたいものだろうなと思いました。
14	慌てないことを大切にしたいと思いました。
15	このような施設を知らなかったので知ることができて良かったです。人と人との関係づくりを大切に、私も生徒と関わっていきたくと思いました。
16	経験者から見た支援や子どもの見方について分かりました。
17	野外での活動など、家庭では経験させられないことに参加することで、学べることがある気づきを生むのかもしれないね。家族以外の第三者との関わりが新しい何かを生むのでしょうか。勉強になりました。
18	卒業していく子どもの話に心強く思いました。

19	経験者の方の話に共感できる部分がたくさんありました。現在、心に問題を抱える生徒のためにいろいろな機関と連携しながら支援したいと思いました。
20	学校卒業後にどうしているか？という生徒がいます。不登校で学校を辞め、その後は？という生徒もいます。地域にアリスの広場のような居場所があれば心強いです。
21	以前より、アリスの広場については知っていましたが、具体的な話が聞けた。今後、生徒や保護者に紹介することができそうです。あらゆる手段を提供したいと考えていて、生徒が自分の生き方に納得して行動できることを期待したいと思っています。佐藤さんご自身の経験も非常に興味深いです。
22	素晴らしい取組をされていると感じました。第三の居場所がもっと広がると良いと思います。支援機関とのつながり事例も知りたかったです。
23	県内にこういうフリースペースがあることを知りました。フリースペースの必要性を感じる現実が多くなることを危惧します。
24	是非、生徒に紹介したい場所だと思いました。保健室や相談室に登校している子どもの「友だち」は、ほとんど会ったこともないネットでの友だちばかりです。都合の良い言葉ばかりかけられ、時に傷つき、また、それをネットの友だちに話すというようなことを繰り返しています。アリスの広場のような人と安心して関わる場が必要だと思いました。
25	一人一人違うことをどのように認めるか、多様化する社会に合わせて、多様な答えの一つを見つける大切さを知りました。
26	自発的な動きをなかなか持てないことが多く、学校ではない居場所がとても大切だと思いました。
27	アリスの広場の概要、どのような人が利用しているのかがわかりました。上手いかわないケースでの対応や気をつけていることについて気になりました。
28	中学卒業後、進学も就職も簡単ではないと思われる生徒の居場所に紹介したいです。
29	経験されたから分かることがたくさんあると思いますし、同時に一人一人違うので難しいこともあると思います。人と会う体験を提供する等々いろいろな体験をゆるくする、そういう場所があるということが大切なのだと思いました。県内の全域にそういった場所があると良いのですが。

Q3(3)事例報告3「経験者の親の報告」

パネリスト さくらんぼの実る頃 代表 湯浅やよい

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	102	60.0%
	4点	50	29.4%
	3点	17	10.0%
	2点	1	0.6%
	1点	0	0.0%
合計		170	



○意見・感想等

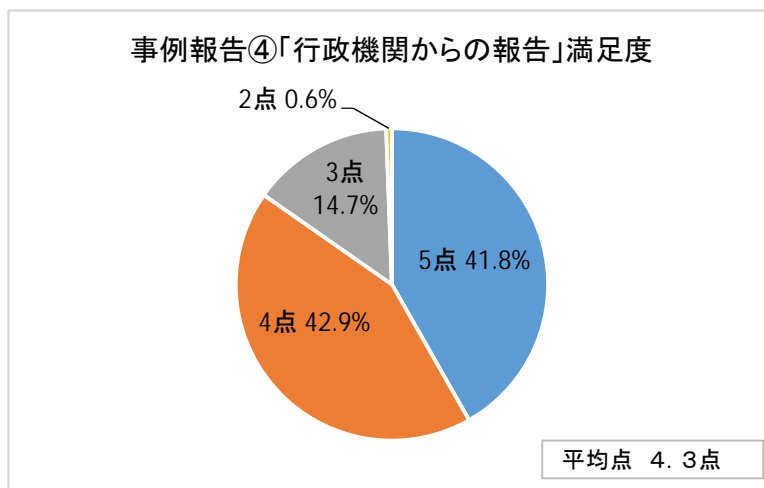
1	実体験をもとに、親の立場からお話を聞くことができ大変参考になり、心に響くものがたくさんありました。不登校の年数よりも背中を押すタイミングが大切だと思いました。湯浅先生の人柄でさくらんぼの実る頃で救われている保護者がたくさんいるのだと感じました。ありがとうございました。
2	実体験の中で、うまくいってもいなくても同じような経験(子どもとの上手いかわり)は、誰もがしている気がします。そこからどうしていくかが、親の力試しなのかなと思います。かかる時間はみんな一緒じゃないと思いますが、やっぱり短いといいなと思っています。
3	親の目線や親の会の役割(効果)が実体験を通じて語られたので説得力があった。
4	本人だけでなく、家族の支援の大切さをとても感じました。
5	子どもとの接し方に少しヒントを得たような気がします。親が変わる必要があると思います。なかなか難しいことですが、努力し子どもに接していこうと思います。
6	親としての心の変化が手に取るようにわかり、それによってどう関わっていったかが具体的によく分かりました。
7	体験者、当事者でなければ入れないような閉鎖性も気になっていたが、心を痛めている保護者が元気になるためには必要なのだと感じた。
8	保護者として、学校の対応に対してチームで取り組んでくれたという一言が印象深かったです。車輪のように互いが協力し合い、生徒が前に進めるような姿勢を大切にしていきたいと思います。
9	こちらの思いで何かしてあげたいと焦りますが、本人の思いをちゃんと知ろうと待とうすること、大切だと思いました。
10	親を支援することの大切さを痛感した。すばらしい取組だと思う。市町村単位であればいいと思う。
11	自身の体験談は重みがあり、よく理解できた。同じような悩みを持つ親の励みにもなると感じた。
12	実体験を交えたお話が聞いて良かったです。私は小さな中学校の教育相談担当なのですが、女子生徒1人が2学期から不登校になってしまい、悩んでいるところでした。生徒だけでなく、保護者の方のケアも踏まえて連携し、対応していきたいと思っています。
13	保護者の心情を理解することができました。
14	親の立場についてリアルに感じることができました。
15	子どもの支援に目を向きがちですが、子どもが悩んでいる時、家族も悩んでいる。子どもを取り巻く周りからアプローチすることも大切だと思いました。
16	親から子どもへのアプローチ方法を知ることができました。
17	まず最初に親が子どもを受け入れることが大切という言葉が印象に残りました。また、養護教諭など、学校の教員の支えが大きいのだとわかりました。

18	保護者が楽になれる場が大切だと思いました。一生懸命過ぎて、先回りする方が多いので。今後、こういう会もあるよと伝えていきたいと思います。
19	代表の方の力量が素晴らしいと思いました。「子どもだけでの話し合い」場面を尊重されていること、親の対話を大切にされていること、良い信頼関係があつてこそと思いました。
20	松井田高校と同じようにいろいろな問題を抱えた生徒のいる学校に勤めています。自立していった話を聞いて勇気ができました。
21	保護者との関係をどう築いていくのか？大変参考になりました。保護者の方々が子どものことで一生懸命になることは当然。でも、子どもが置いてけぼりにならないよう、学校としてひき続き保護者と連携し、支援し続けていきたいと思います。
22	不登校傾向の生徒への対応でよく思うのは、お母さんが本当に大変だということです。よく担任の先生は電話で話を聞いてくれたり、SC面談につなげてくれたりしますが、時間が限られ、月に何回も時間が持てません。私自身が子育て経験もなく、上手いアドバイスもできず、話を聞くしかできません。湯浅さんの活動を是非伝えられれば、お母さんたちも少し気持ちが楽になるというか、心強く感じるかもしれないと思いました。
23	切実な家族の声、経験の言葉がとても参考になりました。支援者として今後の視点に活かします。
24	教員の立場から不登校のお子さんを抱える保護者の気持ちをどこまで汲み取ることができるかということも大切なことだと、それができないと生徒本人への本当のサポートにはならないと思いました。
25	涙が出てしまいました。「親が子どものことを受け入れること」その通りだと思います。本校の相談室登校の生徒も、親が受け入れたことにより、教室には復帰できませんが、良好な親子関係を築くことができている。養護教諭として、母親に子どもの良い所をいっぱい話をするように心がけました。
26	身近な保護者には相談し難い、親のプライドもある、同じ悩みを抱える保護者がいるので是非紹介したいと思います。
27	親として聞いていて涙が出てしまいました。誰でも、どこの家庭でも起こり得ることだと思います。「さくらんぼの実る頃」を知りたい親はたくさんいると思います。周りへの周知をしたいと思います。

Q3(4)事例報告4「行政からの報告」

パネリスト 県こころの健康センター 大館 実穂氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	71	41.8%
	4点	73	42.9%
	3点	25	14.7%
	2点	1	0.6%
低	1点	0	0.0%
合計		170	



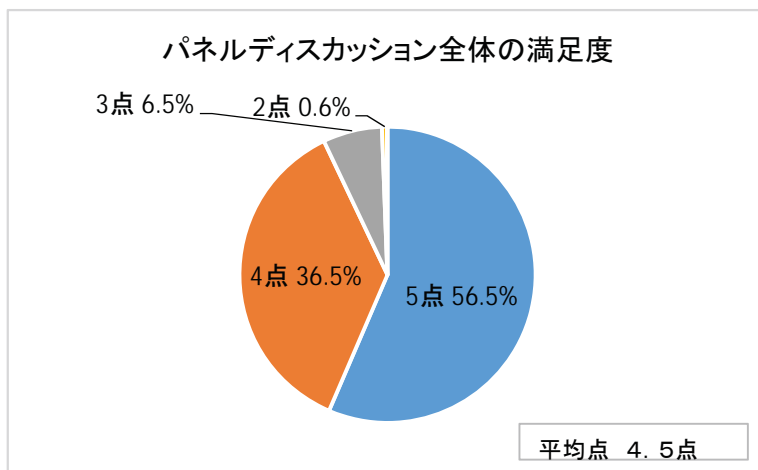
○意見・感想等

1	今まで知らなかった行政の行っている活動を知ることができました。
2	介入時の本人のペース、家族のペースに寄り添うことの重要性を学びました。
3	こころの健康センターの名前は知っていましたが、詳しい内容まではわからなかったので勉強になりました。家庭環境が複雑(家族にひきこもり、発達障害、うつ病の人がいる)で困っている相談を受けたことがあるので、一度、このような機関を紹介してみようと思いました。ありがとうございました。
4	「結論を急がない」と改めて考えさせられました。
5	困っている人へ適切なサービスを提供する大切さなど、本人と望んでいるものと違うことを提供してしまったことで本人が怒ってしまった事例、とても印象的でした。
6	ひきこもりの場合は、まずはひきこもり支援センターに相談が必要と感じました。
7	「こころの健康センター」の仕事の内容が具体的でよく理解できました。つなげる時など、以前より、より分かり易くつなげることができると感じました。
8	専門家集団であるため、逆に「相談」を受ける部分に難しさがあるのではないかと感じた。
9	なかなか上手く行政との協働を図ることができていないため、知らない事も多く、大変勉強になりました。
10	事例について、本人を特定できないよう脚色していたようで少々分かりづらかったように感じました。「相談された時は判断をまじえない態度で、まず相手の話をじっくり聞く」勉強になりました。
11	相手、家族からのアプローチがあった時の流れが少しわかりました。
12	以前、同様な組織の紹介と説明を伺ったことがあった。理解は進んだと感じている(自分自身の)。事例は参考になった。
13	名前だけでどういう機関なのかあまり知らなかったので知ることができて良かったです。事例も知ることができ、今後機会があれば活用したいと思います。
14	医師としての観点で不登校への子どものアプローチ方法を知ることができました。もう少し易しく話をしてくれると良かったです。
15	学校も家族・本人のペースに合わせて介入していかないといけないと改めて感じました。
16	いろいろな機関があるということ、知らせていきたいです。学校を卒業すると社会とのつながりが無くなってしまいう子もいるので。
17	具体的な支援ケースの様子がよくわかりました。
18	さまざまな事例やさまざまな機関の活用を知ることができて、とても勉強になりました。もっと話が聞きたかったです。
19	失敗談を含めた話は大変参考になりました。今後の業務に活用させていただきたいと思います。

20	以前にもお話を聞かせていただいたことがあります、心にストンと落ちる言葉や考え、実践がたくさんあるように思います。
21	知らなかった行政機関が多くあり、どう協力していってもらえるかを知ることができ、大変参考になりました。
22	病院につなげること、SCにつなげるのが目的になってしまうと何も解決できないことは日頃よく感じます。しかし、担任をやっていると、なかなか家族や本人とつながり続けることが難しくなるケースがあることも同時によく思います。外部機関とのつながりが学校としてもありがたいと本当に思います。
23	様々な事例と支援とのつながりが聞け、とても勉強になりました。
24	事例がとても興味深かったです。初めて知った精神科救急情報センターやひきこもり支援センター、何かの時、いざという時に役立ちます。ありがとうございます。
25	こころの健康センターの業務について、もっとPRが必要だと思いました。
26	つなげていくための情報としてありがとうございました。
27	「相談の入口」が大切、すごく納得できました。判断しながら、ついそれを伝えてしまっていたかもしれません。ありがとうございました。
28	相談者との関わり方、考え方について確認でき、大変勉強になった。
29	相談を受けて実際に共に動いてくれる、こんな心強い支援ができる所と感じた。それにしても一人の又は一家族の支援に複数の人が多くの時間を使う必要があるのだなと改めて思う。どうしても相談機関を紹介するだけの支援は限界がある。

Q3(5)パネルディスカッション全体の満足度

満足度		人数	割合
高 ↑	5点	96	56.5%
	4点	62	36.5%
	3点	11	6.5%
	2点	1	0.6%
低 ↓	1点	0	0.0%
合計		170	



○意見・感想等

1	事前に質問を集めているのは、スムーズで時間の無駄がなくて良かったです。
2	石川さんの語り口がとても聞き易く良かったです。リンケージの活動も知りたかったです。
3	大館先生の足並みを揃えるという提案は、昨年の「連携」につながる提案でした。当事者を抜きにしての支援は意味がないので、場・情報・ゴールの連携を大切にしていきたいです。
4	今回は質疑応答があり良かったです。パネリストの先生の話も具体的でわかり易かったです。
5	貴重な体験や事例、助かりました。まとめ方が素晴らしかった。
6	具体的な方法を学ぶことができ勉強になりました。すぐにできなくても生徒本人の気持ち、ペースに寄り添えるよう努力していきたいと強く思いました。
7	長い目で、焦らず、保護者とつながっていきたくと思います。
8	手を挙げて質問するのは、なかなか難しいので、今回のやり方は良かったと思います。日々お世話になっているみどりクリニックの鈴木先生のお話も聞いて良かったです。
9	いろんな学校の先生たちに知って欲しいと思った。先生・教員も一人では大変なので、生徒〇人に先生一人のルールが難しいのでは？少子化なので税金を教員の力UPと増員に使って欲しい。
10	質問に答えていただいたのは有りがたかったのですが、パネリストや鈴木先生でいろいろな意見を言い合うようなディスカッションを拝見したかったです。いろいろな立場の方々からのお話が聞いて、とても良い研修会でした。またの開催を期待しています。
11	石川先生のコメントが心に響きました。大事な所、発表者が伝えたい事、静かに語ってくださり、その度にストーンと心に落ちました。素晴らしいコーディネーターだと思いました。
12	質問と答えを聞いていると、頭や感情が整理されていく気がした。柔軟な思考を大切にしたい。
13	支援や対応に正解はない。その子の特性や環境、価値観も違うので、背中を押して欲しい子、見守って欲しい子、いろいろいると思った。大切なのは対話、相手を知る、頭ごなしに考えないようにすることが大事だと思いました。
14	関係機関に相談してもなかなか上手い支援方法が見つからなかったが、質問に答えて頂き、もう一度支援方法を考えてみたいと思った。
15	質問に答えるのも良いが、自由に話し合ってもらうのも良いような気がする。
16	様々な立場の方々から分かり易く説明をしていただき、「なるほど」「その通り」ですねと考えることが多く、道筋が見えてきました。人を支えるのではなく、互いに支え合うことで自分自身も生きる喜びを感じることに繋がっているのではと思います。
17	支援していただくためには本人や家族といかに信頼関係を築くことが最も大切であることを学びました。本人の考え、その姿をありのまま受け止めることが大切であることも感じましたが、どう解決するかは本当に難しいと思いました。柔軟さについて今後も考えていきたい。
18	思いつかなかったけれど聞いて良かった質問や回答を聞いて良かったです。

19	本人に会えなくても、家族の話を聞いたり、細く長くつながり続ける重要性を再認識させていただきました(湯浅さん、大館先生のお話から)。心に留めて、今後の支援をしていきたいと思えます。
20	参考になりました。Drお二人の意見はさすがでした。
21	一つのテーマに絞ったディスカッションでも良かったのではと感じました。
22	前半部分で話して頂いた内容を更に深く掘り下げていただいたのでよく理解することができました。
23	パネルディスカッションというよりは質疑応答のような感じで、もう少し事例報告についてパネリストの皆さんでかみ砕いて欲しかったです。
24	具体的に内容が気になることを聞いて良かったです。鈴木Drからのコメントもとても勉強になりました。
25	関係づくり、付き合っていくということが大切なのだと思います。
26	どんな事が正解か分からないけれど、いろいろあっても良いと思いました。周りが焦らないことが一番かと。
27	短い時間の中で多くの講師の方々のお話が伺えて良かったと思います。石川先生のコーディネートにより理解がし易くなりました。
28	一方向でなく多方向に見られ、深められた。
29	各パネリストのお話、知らないことがたくさんあり、とても勉強になりました。後半の質問に対する答えでさらに深く知ることができました。
30	子ども若者の先まで切れ目はないと実感している。
31	石川先生が大変手際よく、そして大変深みのある言葉で取りまとめてくださり、意義のある時間になりました。
32	各機関との連携が必要なのだと思いました。支援が必要な生徒のために、いろいろと勉強することができて良かったです。
33	学校は(教員は)どうしても考えを押しつけてしまったり、正解を求めようとしてしまいがちです。子どものペース、保護者のペースを大事にして、長くつながることを心がけて、今後、子どもたちや家庭に活かしていきたいです。同じ職場の教員にも伝えていきたいです。
34	知りたいことが参加者みんな同じに思っている。パネリストの言いたいこと、訴えたいことがよく伝わってきた。
35	多くの質問の答えは、とても参考になりました。一つ一つ分かり易く丁寧に答えていただきありがとうございました。
36	質問に答える形式で、より内容が深掘りされていたように思います。
37	質問を事前に書かせたことが良かったと思う。パネリストの皆さん、コーディネーターの石川さんは大変だったと思いますが、内容的には良かった。
38	短い時間で質問を整理されて対応して頂き、素晴らしいと思いました。
39	体験に基づくお話が聞いて良かったです。コーディネーターのつなぎ方は素晴らしかったです。
40	より具体的に聞いて良かったです。ありがとうございました。
41	少年相談の受理、継続、終結についての基本的なスタンスについて学ばせていただきました。各方面での支援体制の情報も参考になりました。
42	様々な立場の方のお話を伺う中で学ぶべきことがたくさんありました。正解がない中で、その子・家庭にとって最善の対応ができるよう、今日教えていただいたことを忘れずにいたいと思います。
43	時間の制限、人数の問題もあるが、質問→答えるの形でなく、参加者を含めた双方向やりとりができたならより深まると思った。でも十分学び気づくことができました。
44	素敵な時間でした。感謝します。私の生活、仕事に生かしていきたいと思えます。
45	鈴木先生の補足のお話がとても納得ができました。

Q6来年度の研修テーマ「再学習支援」についての意見・要望

○意見・要望

1	本人のやる気をどのように引き出されるのか、退学した子どもの家が情報収集できるのか、情報の集め方、学校からの与え方、小中学校で不登校だった子の再学習
2	前回、今回と学校は比較的小規模校の取組が紹介されていましたが、1000名程度の規模の学校で取り組まれている学校の情報を知りたいです。
3	再学習支援という言葉は初めて聞きました。私自身も勉強したいと思うので詳しく教えていただきたいです。
4	サポート校の実践、コーディネーターは是非、石川先生でお願いしたいと思います。
5	保護者との関係づくりも大切だと今日思いました。是非、保護者の視点も入れて欲しい。
6	当事者のお話が聞きたいです。
7	学校を辞めてしまった場合、再学習支援につながる事が難しいと考えます。どのような場所で知ることができるのか教えて欲しいです。(学校にはパンフが来るので学校以外で)
8	発達障害、アスペルガー障害の二次障害でのひきこもり、不登校の子の対応
9	再学習の場、一覧のようにまとまった形で資料が欲しい。
10	教育現場の人(先生とか)と、福祉現場の人との間にかなり高い壁を感じます。圏域ごとに顔と顔がつながるような研修(GWなど)があったら相談し易いのではないかと思います。
11	やはり「引きこもり」から「就学」「就労」につながる事例、失敗例から学んだこと。
12	中学生は進学という大きなハードルを越えていかなければならないという現実の中で「勉強したい」という気持ちがある子どもを受け入れる側(高校)の体勢について詳しく知りたいです。欠席日数で不合格とする受け入れない学校と、高校でリセットして頑張らせようとしている学校、この差は大きいと思います。
13	実際のデータに基づき、成功例や失敗例を知りたい。理想論はいらない。
14	本人の元気を回復しやる気を出すことができれば、それだけで良いような気もするが、質問だけでも受ける場所があった方が良いかもしれない。
15	Q&Aの時間、とても貴重でした。
16	機会があれば参加したいと感じる。
17	事例を踏まえてのパネルディスカッション。良い例、ダメだった例など知りたい。
18	再学習がゴール(目標)ではないと思います。
19	再学習支援、テーマとしては対象が狭くなるので、まだまだ幅広く不登校ひきこもりについて学びたいと感じます。
20	とても充実、参考になりました。次回も是非、参加させていただきます。
21	コーディネーターの石川さんの司会進行、とても良かったです。
22	学校等での実践も聞きたいです。
23	義務教育でこぼれてしまった子、なかなか手が入りきりません。特に小学校低学年から分からない子が増えていて。
24	参加者(同士等)も参加できる形(ワールドカフェ形式)など、取り入れていただきたいです。前半インプット、後半アウトプット&交流のような。
25	コーディネーターの石川さんの進め方が大変良かったと思います。休憩時間に質問を受け入れる方法も良かったです。来年もよろしくお願いします。
26	地域に適応指導教室がありません。不登校になってしまうと学習も進まず、本人が動き出した時の学習を支援してくれるような活動をしている所があったら教えて欲しいです。
27	高校は月曜日の放課後に職員会議が入ることが多いため、参加しづらいので別の曜日であると助かります。

28	3回目の参加になります。年々パワーアップしていて、とても楽しみです。今回もパネルディスカッションで質問に答える形式、とても良かったです。
29	本日はありがとうございました。大変参考になりました。
30	実際に高校などが学び直しをどう捉えているのか。特に高校教諭にとっては難しいと思われるのですが。
31	今回のような形式が良いと思います。再学習を選択しない子には、どのような進路選択があるのか知りたいです。
32	周りを支援するというのを明日から実践しようと思います。